



中山川について

中山川は、愛媛県西条市を流れる川で、石鎚山系を源流とし、道前平野を東西に流れ、瀬戸内海の燧灘に注ぐ、流路延長 23.1km の二級河川である。

河川流域は平野部が多く、そこに農地が広がる。河川上流部は河床が急勾配であるが、中・下流域は緩勾配にあり、その流路延長は長い。そのため、中・下流域の河床は、土砂が堆積傾向にあり、特徴的である。



中山川の現状

川を代表する魚介類は、アユ、アマゴ、ウナギ、モクスガニ、シジミである。当河川を管理する中山川漁業協同組合では、これら種苗を放流し、資源の維持に努めており、それを対象に組合員や遊漁者が漁や釣りを楽しむ。

現在、当河川の中・下流域では瀬切れ（川の表面に水が流れていない状態）が大きな問題となっている。前述したように、当河川の中・下流域は土砂が堆積傾向にある。加えて、当流域の東予地方は寡雨地域であることから、降水量が少なく、その影響で瀬切れを起こしてしまう。

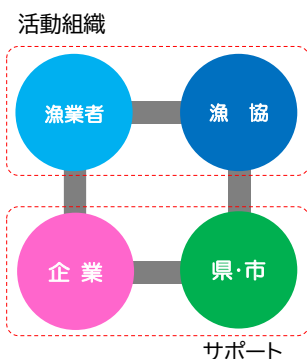
瀬切れは、魚の移動を阻害する。特に、春に海から遡上してくるアユにとって大きな問題であり、その対策が求められる。

また、当河川では、流域住民等における川離れも深刻化している。河川敷を利用してバーベキューを楽しむ家族やグループは多くみられる。しかし、川で泳いだり、遊漁をしたりして川の水や生き物に触れて楽しむ住民は大きく減少した。一方で、河川の堤内外に投棄されたゴミの量は増加しており、河川環境や景観の保全に対する流域住民の理解促進が喫緊の課題となっている。



組織の設立と活動の目的・方針

上記課題の中、中山川の河川環境の保全を図る漁業者・漁協が中心となり、平成 25 年度に「中山川流域環境保全活動組織」を設立。体制は、漁業者と漁協で構成し、地元企業や市・県のサポートを受け、自分たちで取り組める以下の活動を展開することにした。



○ 河川清掃・除草
協定区域全域に投棄されたゴミを回収する。また、草刈りを行い、ゴミを捨てにくい環境を維持する。

○ 河川環境保全に係る意識啓発
体験を通じて、川やそこで暮らす生き物の魅力を実感してもらい、身近な自然に愛着をもってもらう。

中山川の環境保全に係る理解を促す

(1) 河川清掃・除草

河川清掃・除草の活動は、協定区域全域を 10 地区（各区分 3km 程度の範囲）に分け、班分けして取り組みを進める。活動は、原則、年 2 回でレジャーの季節が終わる 11 月と、草木が枯れる 2 月に実施する。

ゴミの回収は、徒手で実施し、燃えるゴミと燃えないゴミとに分け行う。一方、除草作業は、刈払機を用いて実施する。回収したゴミは、ボランティア参加の大手廃棄物処分業者や自分たちで適正処分している。

活動は、構成員 100 人以上が参加し実施する。また、流域住民の河川環境保全に関する理解増進も兼ねて、地元の企業のボランティアにも参加を呼びかけ、一緒に取組を行っている。



(2) 河川環境保全に係る意識啓発

将来を担う子どもたちを対象に、アマゴ放流体験を実施している。対象とする子どもは、川の近くにある地元の保育園児（年中～年長）である。幼少期に川の生き物に実際に触れてもらい、身近な自然に愛着をもってもらいたいと当会では考えている。

活動時期は、12 月初旬の冬季である。体験会では、パネルを利用してクイズを挟みながら川や生き物の話しをし、その後、アマゴを放流する。活動当初から実施している取組で、長年継続して活動している。



活動の効果と今後の課題

当組織を設立し、活動を展開したことで、中山川において課題となっていた投棄ゴミを毎年 1 トン以上回収し、適正に処分できるようになった。また、地元企業がボランティアで活動に継続的に参加してくれるようになり、活動の輪が少しずつであるが広がっている。

加えて、アマゴ放流体験を終えた児童が描いた絵をみると、アマゴの特徴をよくとらえた絵や生き活きと泳ぐアマゴが描かれており、子どもたちの川の生き物に対する愛着がみてとれる。

ただし、山間部や川沿いの道路にゴミを捨てる人、河川清掃で回収したゴミの集積場に隠れてゴミを捨てる人などが未だに散見される。今後も地元企業等を巻きこみながら取組を展開し、多くの住民に我々の活動を知ってもらい、河川環境保全に係る理解を促進できればと考える。

